

ATEM Newsletter

Feb. 2009 NO.18

発行日 : 2009年11月1日
 発行 : 映画英語教育学会事務局
 住所 : 〒169-0075
 東京都新宿区高田馬場
 4-3-12アルク高田馬場4F
 TEL : 03-3365-0182
 FAX : 03-3360-6364
 E-mail : office@atem.org
 郵便振替 : 00820-3-1477

ATEM 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

映画英語教育学会 第15回全国大会が開催されました。

大会テーマ

映画が提供する『気づき』

15th Annual Conference Theme:
 Learning from 'Noticing' in Movies
 (June 20 2009, Senshu University, Ikuta Campus)

日時 : 2009年6月20日 (土)
 午前9時30分～午後6時30分
 会場 : 専修大学 生田校舎10号館2階
 〒214-8580
 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
 主催 : 映画英語教育学会 (ATEM)

■ 第15回大会のお礼と 東日本支部結成準備のご報告

会長 磐崎 弘貞 (筑波大学)
 Hirosada IWASAKI

「映画が提供する『気づき』」を大会テーマとする第15回大会が専修大学開催されました。ご参加いただいた方々にお礼を申し上げます。

今回はいくつか新しい試みがありました。まず、午前中のワークショップでは、原島一男氏および大月敦子氏のおふたりに講師を務めていただき、それぞれ『ローマの休日』と『リトル・ミス・サンシャイン』を題材とした表現分析や授業活動例をご提示いただきました。コミュニケーションにおいて好印象を与える表現や、「cueカード」を用いて会話練習をする題材が映画から抽出され、参加者とともに、具体的に活発な議論がなされました。

田邊祐司教授(専修大学)による基調講演も、いつもとはずいぶん違った情景でした。「映画を使った日英通訳養成」と銘打たれた本講演では、同教授の受講生が数名登場し、映画の一場面を実際に演じたり、即席で翻訳したり字幕文を作成する実演がありました。社会言語的/語用論的見地から、即座に田邊教授が突っ込みを入れる度に、フロアからも大きな喝采と笑いが起こっておりました。

研究発表では、姉妹学会STEMからの発表者も加わり、会話分析、語法、音声指導、授業活性化アイデアなど、幅広い研究発表がなされました。ぜひ、この成果は、紀要での発表へと続けていただければと思います。

こうした発表に加えて、当日行われた総会では、いくつかの重要な提言をさせていただきました。最大のポイントは、東日本支部結成へ準備を始めたことのご報告です。現在、ATEMIは、既に東海支部、関西支部、九州支部が立ち上がり、活発な活動をしております。しかしながら、最大の会員数を持つ東日本地区では支部がなかったため、同地区会員への、よりきめ細やかなサービスが望まれておりました。本ニュースレターがお手元に届くころには、東日本支部設立準備委員会が立ち上がっていると思いますので、今後のご協力を切にお願いいたします。そして、その成果にご期待ください。



■第15回全国大会を振り返って

映画英語教育学会副会長
佐藤弘明 (専修大学)
—— Hiroaki SATO

普段、私は学会や研究会にはほとんど参加しません。6月20日(土)に専修大学で開催された映画英語教育学会大会が、今年になって初めて参加した学会です。ところが今年は例年と異なり、ATEM大会以降、原稿執筆時の9月6日までの期間に、ATEM大会以外に立て続けに4つの研究会に参加し、その3つで研究発表をしました。この4つの研究会と比べながら、今年の映画英語教育学会大会を振り返ってみます。

7月初めにまず、オーストリアで開催された(1)英語コーパス言語学関連の研究会に参加して、研究発表をしました。この研究会の参加者は全体で80名程度だったと思います。7月の下旬には、米国バークレー市で行われた(2)理論言語学関連の研究会に参加しました。この研究会は、200名ほど参加者がいました。8月末からは、札幌で行われた(3)コンピュータ言語学関連の参加し、研究発表をしました。この学会は参加者が70名程度だったと思います。最後は、9月5日、6日に開催された(4)日本語コーパス関連の研究会で、参加者は50名程度ですが、ポスター発表をしました。

ATEM全国大会は、毎年1回開催されてきました。今年は会場が専修大学だったため、事務局に助けをもらいながら、大会の準備をしました。特に大変だと感じたのは、当日に受付で、大会参加費、懇親会費、年会費を現金で徴収する作業でした。(1, 2, 3)の研究会は、事前に参加費を銀行またはネットから振り込ませるようにさせて、当日の受付作業を簡略化していました。(4)は参加費は無料なので、受付作業は楽そうでした。

専修大学でATEM全国大会を行うのは、今回で2回目です。同じ大学で複数回の大会を開催するのは、避けたいのですが、専修大学以外に会場校が決まらなかったため、今回2度目の会場校となりました。会場校がなかなか決まらないのは、大会開催の作業が面倒なのが理由の1つだと感じます。大会開催のための作業を出来る限り簡素化することで、気軽に会場校を引き受けられる状況にしたいです。



姉妹学会STEMのLee会長によるご挨拶



田邊裕司先生による特別講演「映画を使った日英通訳者養成」

参加費が一番高かったのは(3)で、3日間の大会で4万円でした。大会自体は<質素>で、古い校舎の古い機器を使用し、受付や研究発表室の案内の紙も手書きのものがありました。もちろん、3万円もするりっぱな立看板などはありません。会場に用意されたプロジェクターも旧式のもので、発表者が持参したコンピュータとの接続が最後までうまく出来ない発表がありました。第1日目には、会場にマイクが1つしか用意されていなかったため、質問者の声が聞こえませんでした。

今回のATEM大会では、一部の理事と事務局が事前に会場を訪れて、使用教室や使用機材の確認を行ったため、大会当日はスムーズな運営が行えました。ただ、このような事前準備を大会開催の必須条件にしまうと、なかなか会場が決まらないと思います。大会準備は、大会当日の午前中にやる、早く会場に着いた人がボランティアで準備を手伝う、張り紙などはしない、とすれば、気軽に大会会場校を引き受けられると思います。プロジェクターさえキチンと映れば、マイクがなくても、研究発表室は可能だと思います。私は手伝いをしませんでした。ATEM大会案内などのニュースレターの郵送作業も大変でした。これも電子メールで一括送信すべきです。(1, 2, 3, 4)の研究会は、全て電子メールでの連絡のみでした。

(2)の研究会には、80歳の言語学者が中心となって行われました。彼は、大会の準備にもかかわらず、3日間の大会期間中も朝9時から夕方まで研究発表に参加し、最後に彼自身が40分の研究発表を行いました。ATEMでも、80歳の老人が大会準備できる程度の大会を末永く続けられると良いです。



ワークショップ「映画で英語運用能力を鍛える」

支部報告

東海支部

2009年7月20日、愛知県岡崎市にあるコミュニティサテライトオフィスにおいて、ATEM東海支部主催(コミュニティサテライトオフィス後援)による「東海映画映画セミナー in 岡崎」が開催されました。その内容は以下の通りです。

- ①講 演 『逆輸入アニメに学ぶ、言語と文化～ChihiroはなぜSenになったか～』 亀山太一(岐阜工業高等専門学校)
- ②プレゼンテーション 『スクリーンプレイ・シリーズとDVDで英語を学ぼう』 天野剛至(スクリーンプレイ事業部)
- ③シンポジウム 『映画は観るだけじゃもったいない』
パネリスト 松葉明(名古屋市立平針中学校)、網野千代美(中部学院

大学)、井土康仁(藤田保健衛生大学)
コーディネーター 寶壺貴之(愛知産業大学)

このセミナーには、教育関係者だけでなく、一般市民の参加もあり、映画に関する話題で盛り上がっていました。

12月には、同じ会場で東海支部による映画英語フェスティバルも予定されています。

今後もATEM東海支部をよろしく願いいたします。

東海支部長 亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)
Taichi KAMEYAMA

関西支部報告

2002年結成以来7年がかりの計画がやっと実現し、9月26日、皆様のご協力のおかげで奈良での関西支部大会を無事終えることができました。他学会では奈良で大会を開くと人の集まりが半減するそうで心配していましたが、鈴木名誉理事、真下事務局長、亀山先生、角山先生、大月先生の理事・監事を含む55名の参加者を得、他学会の大会と競合しながら大健闘、大成功だったと思います。京都外大生、立命館大生が10人ほど来てくれましたし、若い研究者が多かったこともあって、熱気あふれる支部大会になりました。大会後の支部交流会には35人が参加しました。シンポジウムとワークショップでの発表は以下の通りでした。

日 時：平成21年9月26日(土)
10:00AM~17:45PM
場 所：帝塚山大学・学園前キャンパス

『リトル・ミス・サンシャイン』シンポジウム

司 会：横山 仁視(京都女子大学)
ディスカッション：前田 忠彦(奈良県立高取国際高等学校)
梶本 恵子(奈良県御所市立御所中学校)

パネリスト：

三村 仁彦(関西学院大学大学院博士後期課程) <英語学の視点から>
北本 晃治(帝塚山大学) <コミュニケーション論の視点から>
塚田 幸光(関西学院大学) <アメリカンドリーム論の視点から>

研究発表

- 「映画の名台詞を生かした英語学習法」
籾寛美(ホスピタリティ・ツーリズム専門学校大阪・非)
- 「リメディアル学習に対応した、映画英語テキストの制作」
井村 誠(大阪工業大学)・中井 英民(天理大学)・
松田 早恵(摂南大学)・山本 五郎(関西外国語大学・非)
- 「映画DVDから字幕データを取り出す方法の整理」
古樋 直己(津山工業高等専門学校)
- 「映画で英語サヴァイバル術を身に付ける」
大月 敦子(信州大学・非)
- 「映画『ゴースト ニューヨークの幻』を活用した4技能統合型授業」
角山 照彦(広島国際大学)
- 「Onlyの位置と修飾するもの」
小谷 早稚江(帝塚山大学)
- 「強意再帰代名詞の役割」
山口 麻美(京都橋大学・非)
- 「East is Eastから学ぶイギリスの文化と言語」
志子田 祥子(東京大学・非)・河野 弘美(香里ヶ丘看護専門学校・非)
- 「Between Languages and Cultures: Linda Ohama's Obaachan's Garden」
高井 若菜(大阪産業大学・非)
- 「名詞句における"結果"-中国語結果補語文と英語結果構文等の対照を通じて」
岡本 俊裕(京都外国語大学)
- 「日本アニメとJapanimationの違い―『千と千尋の神隠し』と『Spirited Away』の場合」
亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

関西支部有志で執筆しました『元気がでる!映画の英語』(SCREEN新書)が9月10日、近代映画社より出版されました。

関西支部長 藤枝 善之(京都外語大学・短期大学)
Yoshiyuki FUJIE

九州支部より

2009年9月6日、西南学院大学において、第11回支部大会を開催しました。今年は下記のように2つのワークショップと8つの研究発表がありました。研究発表では、英語教育、文学、語用論そして社会言語学と、様々な観点からの研究成果について知見を得ることができ、参加者一同刺激を受けた一日でした。また、今年は初めての試みとして、一般の方々にも興味を持って頂けるようにと、英語学習法のワークショップ「映画で英語レッスン!」を企画。参加者一同学生に戻った気分であらゆる緊張しながらも、楽しく2つの特別レッスンを受けました。

ワークショップ:映画で英語!
・字幕翻訳にチャレンジ!
・英語で書こう映画レビュー

研究発表

- ・パワーポイントを利用した講義展開
- ・新しい「超字幕」ソフトを使った映画英語

- ・話下手に学ぶ話し方
- ・Using Films to Teach Politeness Markers
- ・英語の呼びかけ語について
- ・授業における、名作映画の文学的分析
- ・The Rhetorical Structures and Linguistic Features of Online Movie Plot Summaries
- ・高校における英語授業での映画活用法の一考察

なお、今大会には3名のネイティブの先生が参加、うち2名が研究発表をして下さいましたが、今後も英語による発表が増えていくよう期待しています。大会参加者からは、「収穫が多かった」「非常に有意義な一日となりました」などの感想を頂き、また初参加の先生がたにも大変好評であったことを嬉しく思います。今後もより多くの方々に参加して頂きATEMの魅力を知って頂けるよう、運営委員一同力を合わせて行きたいと思っております。

九州支部長 中島 千春(福岡学院大学)
Chiharu NAKASHIMA

映画を活用した実戦的英語教育・研究の発展をめざして ATEM東日本支部結成!!

東日本支部設立にむけて

関東地方に支部が欲しいという要望は強く、理事会の中でも長年の懸案事項でした。関東支部案はたびたび顔を出すものの、本格的に検討されることはなく立ち消えるという状況がここ10年ほど続いていたのでしょうか。しかし、本年6月19日の理事会におきまして、関東支部設立に向け準備委員会を設置することが可決されました。これをうけまず有志が集まり準備委員会のための準備から作業が開始されていきました。

支部設立は規約の手順を踏まえながら行っていきます。が、これが大変な作業であり、東海支部、九州支部、関西支部と支部設立の前例はありながらも手探りの状態が続きました。あるべき支部の姿や方針の草案づくり、各種資料の作成やスケジュールの調整、そして、関東とはどこまで含むのかなど根本的な地理的区分の問題など、何度も打ち合わせを重ねながら、支部を作るのって大変だなあ、とつくづく感じさせられました。同時に現支部の方々のご努力に改めて敬服せざるを得ませんでした。

このような下準備を経て、10月18日に第一回の設立準備委員会が開催されました。ここからいよいよ本格的な議論となり、12月20日の設立総会という道程も示されました。

支部設立世話人会代表
新田晴彦 [ATEM理事]
専修大学



関東支部は、新潟県を含む北陸地方をも含めるため、東日本支部という名称で立ち上がります。東日本支部エリアの会員の方にお送りした設立趣意書には、

- ①映画英語教育教授法の情報収集及び提供と普及
- ②実践的英語運用能力向上のための映画利用法・教授法を開発
- ③映画を通じて異文化理解・交流の発展

と目標を掲げました。これらを一言で表せば、「会員が求めることに応じていく」に他なりません。考えてみれば当たり前のことなのですが、現状を真摯に反省し初心に帰ることからその第一歩を踏み出そうとしております。そのために具体的に何をすべきなのか、準備委員会の中ですでに活発な議論が行われております。今後、さまざまな研究会、セミナー、講演、ワークショップなどが日常的に行われていくこととなるでしょう。会員の皆様の経験や知識、アイデアなどを活かしていく支部にしたいと考えております。ぜひ支部活動に積極的にご参加いただけますようお願い申し上げます。

映画英語教育研究・実践の拠点を目指して

支部設立世話人
瀧口 優 [ATEM理事]
白梅学園短期大学



学会の基本は研究実践活動です。映画英語教育学会は創立以来15年歩んできましたが、会員数が最も多く、様々なメディアにも近いこの東日本の地に支部ができることは特別な意味を持っています。今後の活動計画について報告させていただきます。

基本的には設立総会において方向が決まり、その報告に沿って具体的な研究実践活動がスタートしますが、映画を活用した英語教育法の研究、英語授業の実践研究、情報収集・交換など、学術交流・研究発表の「場」として多彩な活動を実践していきたいと考えております。今後、皆様方からのご意見・ご提案等により、活動の更なる充実を目指します。以下研究会で今後取り組むことが予定されていることです。

- ①セミナーやワークショップの開催と、授業実践報告の発表
- ②テーマに沿った研究プロジェクトの設立

- ③研究成果の発表と普及として出版化等の企画
- ④他支部・外部関連部門との交流

研究会は都内の学校を会場にして定期的に開催します。より多くの方々がこの趣旨に賛同していただき、ATEM東日本支部の活動にご協力・ご参加をいただけることを願っています。

最後になりますが、映画英語教育学会設立より理事として関わってきた者として、自分の足元に支部を作ることができなかったことを強く反省しています。映画を使って英語の授業を活性化することは、生活基盤を失いつつある現代において極めて重要な意味を持っています。小学校に英語活動が導入されつつありますが、それに対しても本学会として何らかの展望を示さなければなりません。このように課題はたくさんありますが欲張らずにすすめられたらと思っています。

『戸田奈津子氏』の記念講演のお知らせ

講師 戸田 奈津子氏
(映画字幕翻訳家)

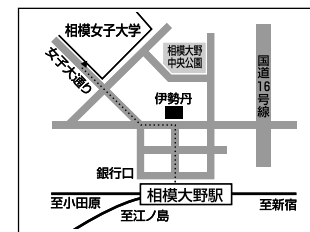
テーマ 『映画で英語を学ぶ』

定員 250名 11月7日(土)より申込み受付開始

日時 12月20日(日) 14:00~16:00

場所 相模女子大学

神奈川県相模原市文京2-1-1
※小田急線相模大野駅 徒歩10分



<http://www.sagami-wu.ac.jp/>

講師紹介

戸田奈津子(とだ・なつこ)

●略歴

東京都出身。津田塾大学英文科卒業。短期間のOL生活やフリーの翻訳などをしながら、故清水俊二氏に字幕の手ほどきを受け、1970年『野生の少年』『小さな約束』などで字幕を担当。その後、さらに10年近い下積みを経て、1980年の話題作『地獄の黙示録』で本格的なプロとなる。これまでに手掛けた作品は字幕監修を含め1,000近くに達する。

■主な作品

『E.T.』(1982) 『バック・トゥー・ザ・フューチャー』(1985) 『ダンス・ウィズ・ウルブス』(1990) 『ターミネーター2』(1991) 『シンドラーのリスト』(1993) 『フォレスト・ガンプ』(1995) 『タイタニック』(1997) 『アルマゲドン』(1998) 『ハリウッド・ボッター』シリーズ(2001~) 『パイレーツ・オブ・カリビアン』(2003) 『ラスト・サムライ』(2003) 『プロデューサーズ』(2005) 『ダヴィンチ・コード』(2006) 『ハンコバル・ライジング』(2007) 『ナイトミュージアム2』(2009)

■主な著書

『字幕の中の人生』(白水社) 『男と女のスリリング』(集英社) 『スターと私の英会話』(集英社) 『スクリーンの向こう側』(共同通信社)

東日本支部結成大会

○日時 12月20日(日)
○場所 相模女子大学

第1部 支部結成大会 13:00~13:40

- 1.開会の辞
- 2.設立趣意説明
- 3.設立宣言
- 4.役員の見出し
- 5.支部長あいさつ
- 6.祝辞
- 7.今後の活動予定・方針説明
- 8.閉会の辞

※東日本支部(東京・千葉・神奈川・埼玉・群馬・栃木・茨城・山梨・長野・新潟)会員以外の方は会場の都合上、事前にお申し込みください。東日本支部会員の方には別途ご案内いたします。

第2部 記念講演会 14:00~16:00

- 【1】基調講演 曾根田憲三氏
(相模女子大学教授・前映画英語教育学会会長)
- 【2】記念講演 戸田奈津子氏(映画字幕翻訳家)

講演後、東日本支部の今後の研究活動や各委員会の内容を紹介いたします。

〈休憩
20分〉

申込み方法

氏名、連絡先(電話番号もしくはE-mailアドレス)をご記入のうえ、メールまたはFAXにて事務局宛にお申し込みください。

[ATEM事務局(03-3365-0182)] [FAX] 03-3360-6364 [e-mail] office@atem.org

大会参加者特典

ATEM賛助会員会社「スクリーンプレイ」から協賛

先着200名に『スクリーンプレイシリーズ』一冊贈呈!!
(右の5タイトルの中から) [スクリーンプレイ刊]

名作映画完全セリフ集『スクリーンプレイ・シリーズ』は、映画のセリフと書き(シーンの説明)を完全に英語および日本語で文字化したもので、映画をバイリンガルな読み物として楽しむことができ、また英会話学習や学校教育に利用できるシリーズの名称です。



ローマの休日 カサブランカ 風と共に去りぬ プラダを着た悪魔 スラムドッグ ミリオネア

※このスクリーンプレイシリーズは創刊以後、毎号、ATEM会員先生方がセリフの翻訳や語句解説、コラムなどを担当しています。

委員会報告

データベース作成委員会

当委員会では映画の分析 (discourse analysis in movies) やこれを英語教育に応用した教材を作成する活動をしています。なお、新作映画の紹介も積極的に行っています。

これまでに開いた5回の委員会では、データベース用フォーマット(案)作成、映画のエントリー、その中から、『エリン・ブロコビッチ』、『スラムドッグ\$ミリオネア』、『スナッチ』、『プリティ・プリンセス』…と順次に進めています。

年度内には30数本が完成します。現在はこれを当委員会の数名の委員で担当して行っています。

「初～上級レベルの英語学習者向け」という視点で、映画の English Scriptと場面を精細丹念に分析し、情報効果を抽出して作成します。成果としては豊かな文化・教養のあるコンテンツのもとに英語運用力を高めるオリジナルな教材が出来上がります。そして、これはみんなで共有できるものなのです。

当学会で入手可能な資料(映画素材)は延べ600本以上もありますので、そのデータを扱うにはもっと多数の方々の協力が必要となります。したがって、今後の対策として、例会を2ヶ

月毎に開きますので、映画分析やその応用教材の作成に興味があり、積極的に参加していただける方を募ります。新たに多くの方が参加していただけることを現委員一同願っております。

申込先：ATEM DBC-Committee

(DATABASE COMPILATION COMMITTEE)

- ・例会開催日はホームページ <http://www.atem.org> または <http://www.atem.org/cn38/index.html> でご覧になれます。
- ・新作映画の紹介は、<http://www.atem.org> に掲載してある特集(PDF)をどうぞ。

塚田 三千代 (映画アナリスト)
————— Michiyo TSUKADA

W.クリンガー (滋賀県立大学)
————— Walter KLINGER

国際交流委員会

STEM大会案内

2010年度のSTEM大会は、4月17日(土)にソウルの Myong-ji Collegeにて開催される予定です。発表の申込み締切りに関しては、まだ正式な発表がありませんが、ご希望の方は2010年2月までに国際交流委員会(reiko504@gmail.com)にご連絡ください。3月中に発表概要(A4 1～2枚程度)を提出していただくこととなりますので、ご準備の程よろしくお願い致します。

また、ご発表ではなくてもご参加いただくことは可能です。毎年発表者に加えて、複数の先生方や院生の方がご参加で、リー会長をはじめ、STEMの皆様は大歓迎をいただいています。

秋好 礼子(福岡大学)
————— Reiko AKIYOSHI

原稿募集!

ATEM Newsletter NO.19 に掲載する「授業研究」の原稿を募集しますのでご応募ください。

映画を使った英語授業を紹介する内容で、字数等については次の項目に従って、簡潔に執筆する。

- ①授業目標
 - ②評価
 - ③教材 DVDタイトル
 - ④授業概要
 - ⑤指導ポイント
 - ⑥映画データ:ストーリー紹介と公式サイトなど。
- 字数はA4サイズの二分の一に収める。

*ATEM Newsletter NO.17の5頁を参考にしてください。

第14期 映画英語教育学会 2008年 決算報告書

(2008.1.1~2008.12.31)

収入の部			支出の部		
前年度繰越		921,313	大会開催費	大会開催総費用・創価大学	305,470
会員年会費	04年度分@3000*	3,000	紀要発行費	紀要作成・印刷費・送料	94,190
	05年度分@3000*	24,000	ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費・送料	85,225
	05年度分@5000*	15,000	ホームページ維持費	プロバイダー基本料金他	34,335
	05年度不足分@2000*	2,000	研究活動費	支部活動助成	150,000
	06年度分@3000*	30,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	47,848
	06年度分@5000*	55,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	40,699
	06年度不足分@2000*	2,000	旅費交通費		4,110
	07年度分@3000*	81,000	交際費		10,500
	07年度分@5000*	105,000	支部助成金	支部フェスティバル助成	150,000
	07年度不足分@2000*	8,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助他	5,638
	08年度分@3000*	321,000	租税公課		0
	08年度分@5000*	740,000	国際交流費	STEM他運営費用	0
	08年度不足分@2000*	28,000	雑費	振込料他	7,410
	09年度分@5000*	5,000			
賛助会費	07年度分@10,000*	20,000			
	08年度分@10,000*	80,000			
			小計		935,425
大会参加費	@1,000*	64,000			
	@2,000*	60,000			
大会懇親会費	@4,000*	132,000		みずほ銀行	1,174,621
				郵便振替口座	694,336
				小口現金	43,271
書籍売上	紀要・著作権ハンドブック	142,500			
受取利息		820			
郵送料収入		0	翌年度繰越金		1,912,228
雑収入		8,020			
合計		2,847,653	合計		2,847,653

※個人会員401名・賛助会員9社

2009年3月吉日 上記の通り相違ありません。

 会計監査 泉 日出人
 大月 敦子

ATEM第16回全国大会 発表者募集

詳細はATEMホームページ (<http://www.atem.org/>) をご覧下さい。

役員及び委員紹介

会長

磐崎 弘貞(筑波大学)

副会長

佐藤 弘明(専修大学)

高瀬 文広(福岡医療短期大学)

藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

理事

秋好 礼子(福岡大学)

角山 照彦(広島国際大学)

亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

W. クリンガー(滋賀県立大学)

瀧口 優(白梅学園短期大学)

塚越 博史(北海道医療大学)

塚田 三千代(映画アナリスト)

中島 千春(福岡女学院大学)

新田 晴彦(専修大学)

日野 克美(獨協大学)

真下 富雄((株)広真アド)

名誉会長

鈴木 博(東京大学名誉教授)

名誉理事

鈴木 雅夫((株)フォーイン代表取締役)

研究委員会

磐崎 弘貞(筑波大学)

佐藤 弘明(専修大学)

兼本 円(琉球大学)

紀要編集委員会

秋好 礼子(福岡大学)

亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

新田 晴彦(専修大学)

日野 克美(獨協大学)

大会運営委員会

亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

佐藤 弘明(専修大学)

中島 千春(福岡女学院大学)

藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

賛助会員交流委員会

高橋 ひとみ((株)広真アド)

著作権問題専門委員会

角山 照彦(広島国際大学)

瀧口 優(白梅学園短期大学)

塚越 博史(北海道医療大学)

藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

朴 真理子(立命館大学)

データベース作成委員会

W. クリンガー(滋賀県立大学)

塚田 三千代(映画アナリスト)

大月 敦子(信州大学)

神田 みなみ(平成国際大学)

原島 一男(ジャーナリスト)

チェン/レン暁子(聖学院大学)

東海林 康彦(映画アナリスト)

国際交流委員会

秋好 礼子(福岡大学)

高瀬 文広(福岡医療短期大学)

倉田 誠(京都外国語大学)

鶴田 知嘉香(福岡雙葉中学校・高等学校)

会計監査

泉 日出人(京都府庁)

大月 敦子(信州大学)

支部

東海支部長 亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)

関西支部長 藤枝 善之(京都外国語大学・短期大学)

九州支部長 中島 千春(福岡女学院大学)

事務局長

真下 富雄((株)広真アド)

会計

盛 みえ子((株)広真アド)

関口 陽子((株)広真アド)

入会案内

1. 本学会には学会の主旨、目的、会則に賛同する人及び会社・団体は誰でも入会できます。
2. 下記の入会申し込み用紙に記入の上、事務局まで FAX または郵送して下さい。E-mail でも結構です。
3. なお、賛助会員として入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。
4. 送付先: 映画英語教育学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12アルク高田馬場4F (株)広真アド内
TEL : 03-3365-0182 FAX : 03-3360-6364 E-mail : office@atem.org

(切り取り線)

映画英語教育学会入会申込用紙 (FAX 03-3360-6364)

私は、「映画英語教育学会」の会則を承諾し、入会を申し込みます。

年 月 日

氏名	(フリガナ)				
	自宅	住所	〒		
		電話	FAX		
E-mail					
勤務先	学校名	学校名			
	会社名	部署名			
	住所	〒			
	電話	FAX			
郵送物送付		<input type="checkbox"/> 自宅優先		<input type="checkbox"/> 勤務先優先	